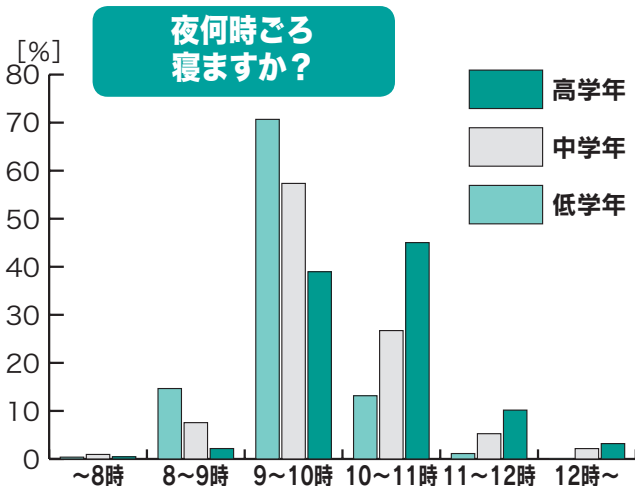
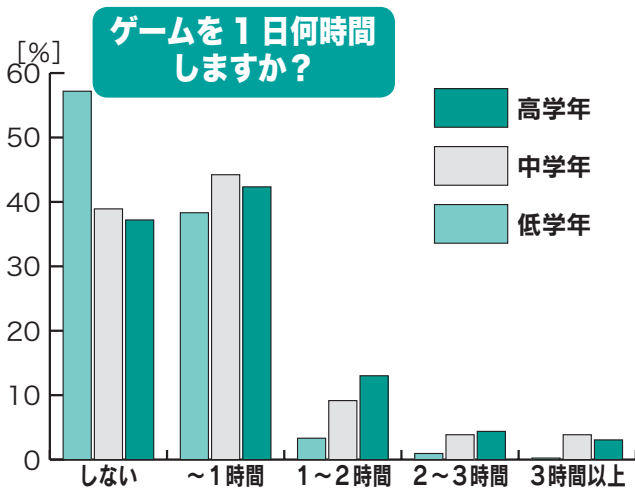
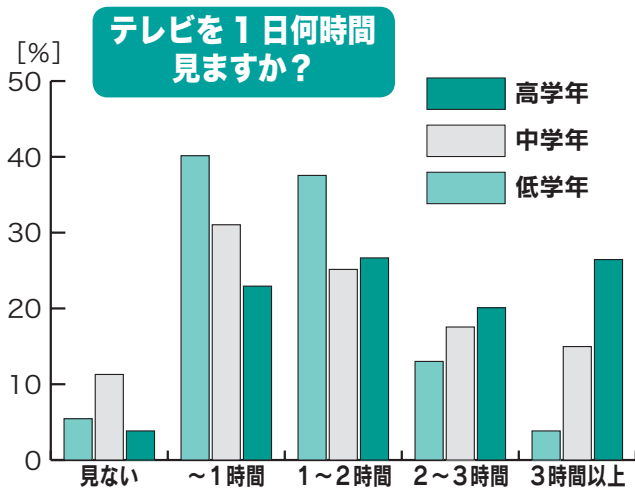


生活改善プロジェクト

市内の子どもたちの生活実態は・・・【17年5月県教育委員会実施 「体力テスト・生活調査アンケートより」】

ストップ!! ザ テレビ・ゲーム・インターネット



合い言葉は「早寝・早起き・朝ごはん」

子どもの夜更かしや食生活の乱れをなくそうと、文部科学省では4月から「早寝・早起き・朝ごはん」を合い言葉に、朝のラジオ体操や学校での早朝読書会など、子どもの生活リズムを改善させる様々な地域活動の支援推進に乗り出しています。

本市においても、このプロジェクトのスタート当初から、全小学校の保護者に対して、生活改善の協力を呼びかけていますが、さらに一歩進めた形での取組みを行います。

今の子どもたちは、テレビ、ゲーム、インターネットによる情報のはんらんや、一部に見られる暴力的なシーンにさらされ、それが続くことで感覚が麻痺し、さらに強い刺激を求める傾向にあります。また、こうしたことは、子どもだけでなく、大人にもいえることであり、そういう意味では、今回の「生活改善」は子どもたちの健全育成だけでなく、市民全体を対象としたものともいえます。

もっと家族の会話、ふれあいの時間を

元々「家庭」は、乳幼児期や少年期においては、保護者とのふれあいの中で絶対的な安心感を与えることによって、愛情や信頼関係を学ぶ場であり、その人の「こころのかたち」がつくられる場です。これらがしっかりしてこそ、活動の場が広がる中で社会性を身につけながら、一人の市民としての成長が可能になります。

「早寝・早起き・朝ごはん」という人間本来の生体リズムを取り戻すことこそ、病んだ今の日本人には必要なのではないのでしょうか。特に幼少時に影響が大きいといわれる、メディアを通じた有害な情報から「子どもたちを守る」という意味でも、テレビ視聴やゲーム、インターネットに関わる時間を制限し、逆に親子のふれあいや会話を増やしてみてもはどうでしょうか。